



1月中旬、留学生は池袋防災館での体験学習を含む、学内外での防災学習を行いました。学内外でのフィールドワークでは学内の施設や設備について理解を深めるとともに、実際の自然災害を想定し、近隣の避難所までの避難を行った上で、防災マップを作成しました。防災館では、体験を通して、災害時の対応とともに、そのときに使える「火事だ!」などの日本語も勉強しました。学生たちは、すでに地震を体験したこともあり、真剣に取り組んでいました。In mid-January, international students took part in disaster preparedness learning on and off campus, including hands-on training at the Ikebukuro Life Safety Learning Center. During fieldwork on and off campus, they deepened their understanding of the facilities and equipment on campus as well as created evacuation maps after actually traveling to one of the evacuation sites near the campus. At the Life Safety Learning Center, they learned how to respond at times of disasters, as well as some Japanese such as "Fire!" As they have already experienced an earthquake, they engaged in the activities seriously.

かこ 2しゅうかんで日本のしぜん災害と防災について勉強しました。しぜんさいがいはのほっせいじょうほうといろいろなけいほうのことばとひなでじゅんについて勉強しました。今、TMDU、湯島と私のりょうと国府台(市川)で消火器、レスキューじどうはんばいき、こうしゅでんわ、AEDときたくしえんステーションをみつけることができるのをしています。また、じしんの時にあんぜんのためのじょうほうを学びました。いろいろな防災たいけんとARISアクティビティをしようしたためトレーニングはたのしくてこうりつできでした。じょうほうは日本での生かつにべりです。

(シカノガナ)

私の好きなアクティビティーはキャンパスのフィールドワークです。そのアクティビティーでいろいろなじょうほうをまなびました。たとえば、AEDとぼうさいセンターと電話ボックスについてまなびました。ひじょう口としょうかきのいちについてもまなびました。これはさいがいの時やくだつと思います。それから、日本のたてもののデザインについていろいろなじょうほうをまなびました。日本のたてものはほかのとどうちがうかをまなびました。

(イムティアズ/バングラデシュ)

私の日本語クラスの人は、いけぶくろぼうさいかんに行きました。日本の2011年のじしんとつなみのビデオを見ました。あとで、さいがいのぼうさいについてまなびました。私はかじの時のしょうかきのつかいかたをまなびました。いけぶくろの前に私はぜんぶのしょうかきの中はおなじけミカルか水だと思っていました。でも、おなじじゃないです。また、じしんの時、つくえの下への入りかたをまなびました。学校もひなばしよです。私はけむりがある時、たてものの出かたをまなびました。

(サミラノガナ)



◆池袋防災館での様子
防災館では体験を通して、地震と火事と煙について学びました。



先週の火曜日に、クラスで自然災害について習いました。防災館に行ったり、消化器をつかったり、地震の擬似体験をしたりしました。木曜日に、みんなあるいて近い避難所に行きました。たくさんの写真を撮ったり、自動販売機や帰宅支援ステーションをみたりしました。大学に帰った後で、私たちは防災地図を作りました。楽しかったと思います。それから、みんなの前で、グループの地図を見せました。いろいろな防災施設と標識についてならったことがあります。

(ミリーノ中国)

火曜日に日本語クラスのみなさんはいけぶくろ防災訓練センターに行きました。自然災害についての映画を見ました。その後、消火器を使用したり、マグニチュード7の地震を体験したりしました。地震がほんとうなら、とてもこわいと思います。自然災害へのたいしよほうほうも勉強しました。たとえば、火事がはっせいしたら、「火事だ」と言います。そして、119に電話した後、近くの消火器を使用します。防災のことをたくさん勉強したと思います。おもしろいと思います。

(ウノ中国)



◆フィールドワークの様子
学内外の防災に関する設備や施設について理解を深めるとともに、近隣の避難所まで実際に行ってみました。

私はいけぶくろのアクティビティが好きです。このセンターは私たちに災害のトレーニングを教えてくださいました。私たちはかじやじしんやひなんについてまなびました。私は、このアクティビティはよかったですと思います。今なんかいじしんのニュースがありますから、トレーニングはとてもべんりです。私はじゅんびができます。たとえば、じしんの時、私は家の近くの避難所に行つて、ひじょうしょくをじゅんびします。私たちがいきのこるために避難についてまなぶことはひじょうにじゅうようです。よくじゅんびするひつようがあります。

(マミョー／タイ)

火曜日にいけぶくろぼうさいかんに行きました。そこで消火器の使い方を学びました。火事があったら、大きな声で「かじだ」と言つて、消火器を使用します。さいしょに、安全ピンをひきぬぎます。次に、ホースを外して火元に向けます。レバーをつよくにぎります。グループでれんしゅうしました。たのしくて、ゆうようです。先生はとてもしんせつです。しぜんさいがいへのじゅんびは大切だと思ひます。

(チャン／ベトナム)

私は小さいじしんにだけあつたことがありました。さいがいについてまなぶことはひつようです。Ikebukuro Life Safety Learning Centerで津波のえいがをみました。そして、じしんやかじについてならいました。しょうかきもつかいました。私はこのアクティビティはよかったですと思ひます。じしんのシミュレーションはとてもたのしかったです。今、日本でしょうかきがたくさんあります。Ikebukuro Life Safety Learning Centerにじょうほうがたくさんあります。このアクティビティはいいと思ひます。

(テー／ラオス)

日本はじしんがはっせいしやすいくにです。日本はおおくのしぜんさいがいをけいけんしました。このくににすんでいるときは、きんきゅうの時にじゅうなけつていをくらすため、じしんときさいがいについてまなぶことがじゅうようです。いけぶくろぼうさいセンターに行きました。ぼうさいについてまなびました。しょうかきのつかいかた、かさいのとめかた、じしんでみをまもるほうほうです。2011年の東日本だいしんさいにかんする映画も見ました。インストラクターがしょうかきのただしいつかいかたをおしえてくれました。かさいのさいにひなんするただしいほうほう、ならびにじしんちゅうになにがおこるか、そしてどのようにそれにほのうするか。しょうかきのこうぞうとそのしくみについ

てまなびました。火を見たらかじだをさけふります。しょうかきでひをこうげきすることがじゅうようです。日本では、119はしょうぼうしょに電話するばんごうです。じしんシミュレーションもけいけんしました。さいがいのプログラムは、おもしろくて、ゆうえきでした。

(フェイゼ／ガーナ)

先週の木曜日、友達と先生と一緒に池袋防災館に行きました。防災館でたくさんのおこ事を勉強しました。先生は火事の時「火事だ」と言うことをおしえてくれました。友達と一緒に消火器の使い方を勉強しました。私は楽しかったです。そして、地震の映画を見ました。先生も地震の時どうするかをおしえてくれました。私はやくにたつたと思ひます。

(シュ／中国)

私はせんしゅう池袋防災館に友だちと先生といっしょに行きました。私たちはさいしょかじについて勉強しました。かじだといつてしょうかきをつかいました。そして、じしんのビデオを見て、大きいじしんについてりかいました。私たちはもえているたてものからにげるのを勉強しました。とてもたのしかったです。あのセンターの人はやさしくてフレンドリーでした。

(モー／ミャンマー)



◆防災マップ

大学近隣にある避難所までの経路上にある施設や注意点等をまとめました。

日本語教室より

最近、日本に住む外国人が多くなつてくるにつれ、その人たちとどのようにコミュニケーションをとるのかということが大きな問題となつてきました。

災害時の情報提供などに特に焦点を当てた「やさしい日本語」もその一つです。地震で津波警報が出たとき、テレビ画面に「すぐにげて!」「つなみ!にげて!」と表示が出たのを見たことがある人もいると思ひます。

留学生には、緊急時の日本語も含めて、日本での生活に困らない程度の日本語は身につけてほしいと思うと同時に、この「やさしい日本語」のような意識も広がればいいなあとと思う今日この頃です。